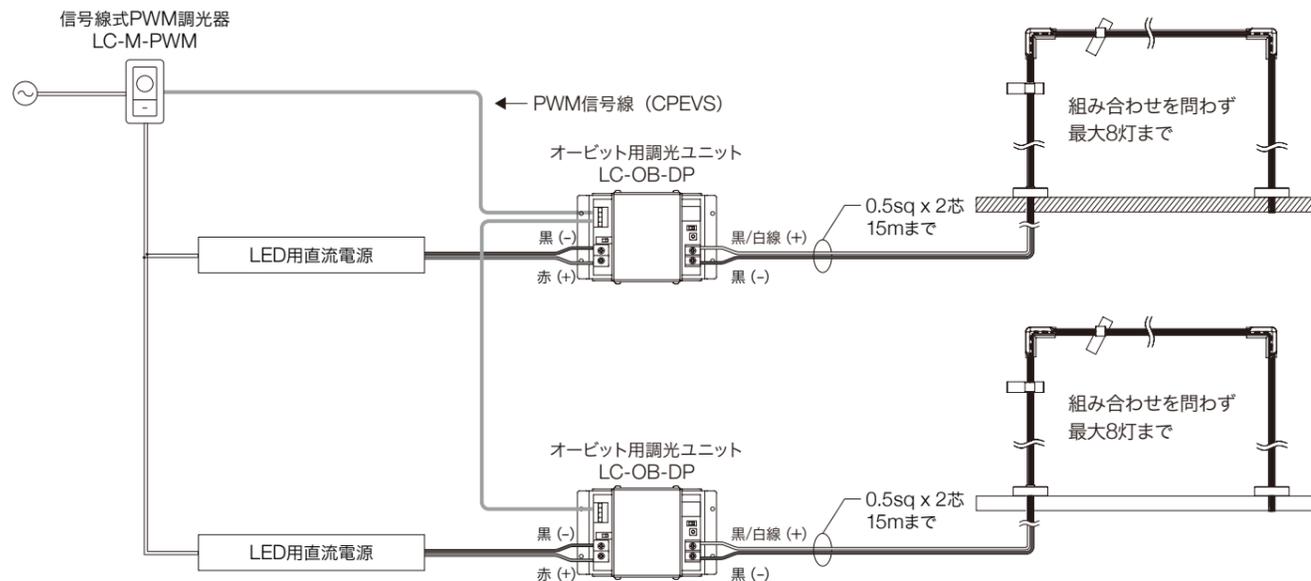


06 複数台同時調光時の配線

PWM信号線式調光器 (LC-M-PWMまたは他社製調光器) + オービット ガントリーを使用する場合



※電源/調光ユニット1台に複数のスタンド/シャフトを接続してご使用いただけます。
その場合も、電源/調光ユニット1台で点灯できる灯数は組み合わせを問わず最大8灯までです。

※全体調光をしない際も、灯具ごとの個別調光が可能です。
詳細は【PAGE9 05 電源と配線 個別ON/OFF・個別調光について】をご覧ください。

2026.1.21

取扱説明書

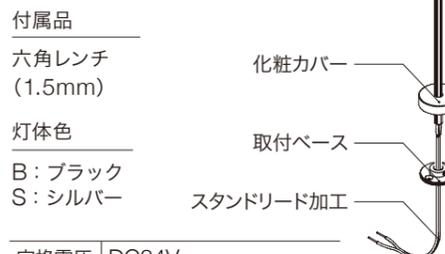
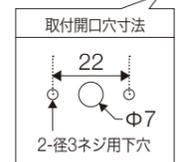
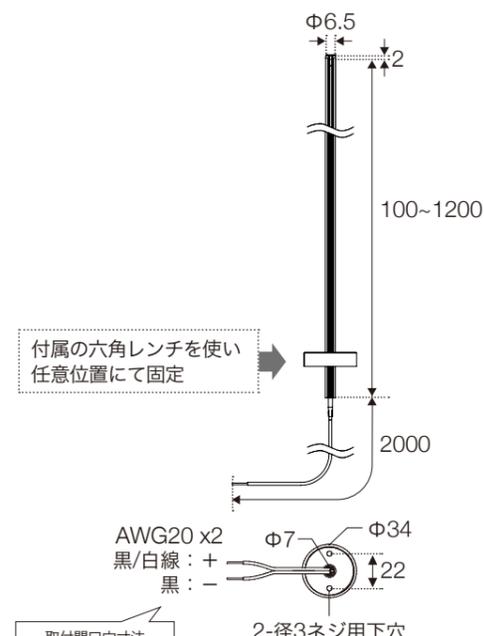
ORBIT SYSTEM

オービット システム

製品仕様 (シャフト) 単位: mm

施工スタイル: スタンド

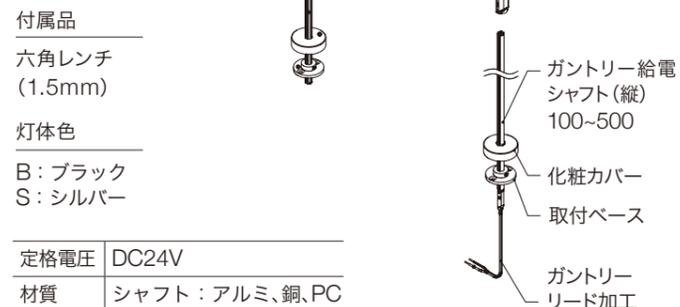
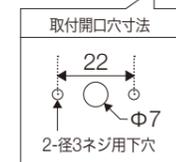
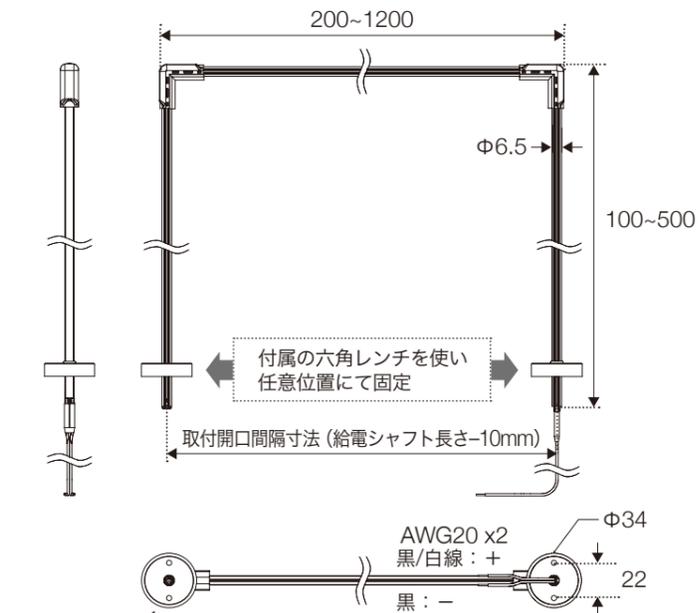
給電スタンド
OB-STD24V- / スタンドリード加工
OB-SLC-
製作範囲: 0.1m~1.2m
製作単位: 0.1m(10cm)



| | |
|------|----------------|
| 定格電圧 | DC24V |
| 材質 | シャフト: アルミ、銅、PC |

施工スタイル: ガントリー

ガントリー給電シャフト (横) **OB-GNT24V-YK-** / ガントリー給電シャフト (縦) **OB-GNT24V-TT-** / ガントリーリード加工 **OB-GLC-**
製作範囲: 0.2m~1.2m / 製作範囲: 0.1~0.5m
製作単位: 0.1m(10cm) / 製作単位: 0.1m(10cm)

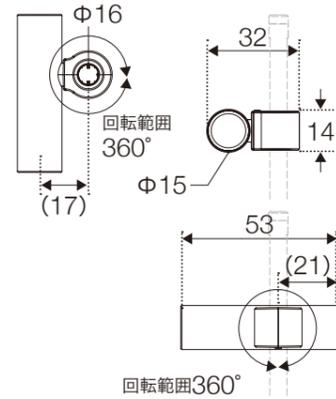


| | |
|------|----------------|
| 定格電圧 | DC24V |
| 材質 | シャフト: アルミ、銅、PC |

製品仕様 (灯具) 単位: mm

灯具: オービットスポット

OBS02-__K-__D-__



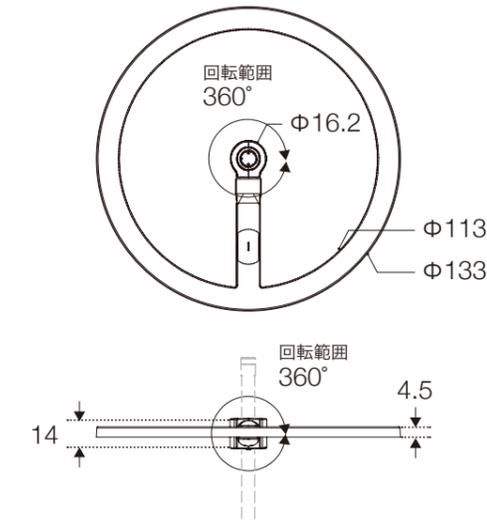
| | |
|-----|---|
| 光源色 | |
| 標準 | 27K: 2700K (Ra85) 30K: 3000K (Ra85) 35K: 3500K (Ra85) 40K: 4000K (Ra85) 50K: 5000K (Ra85) |
| 高演色 | HC27K: 2700K (Ra95) HC30K: 3000K (Ra95) HC35K: 3500K (Ra95) HC40K: 4000K (Ra95) HC50K: 5000K (Ra95) |

| | |
|------|----------------------------------|
| 定格電圧 | DC24V |
| 消費電力 | 1.7W/灯 |
| 材質 | 本体: アルミ、PC 接点: 銅 発光部: PMMA |
| 製品重量 | 本 体: 約16g/灯 |

| | |
|----------|---------|
| 配光 | 灯体色 |
| 16D: 16° | B: ブラック |
| 24D: 24° | S: シルバー |
| 30D: 30° | |

灯具: オービットリング

OBR01-27K-B



| | | | |
|-----|--------------|------|------------------------------|
| 光源色 | 2700K (Ra90) | 定格電圧 | DC24V |
| | | 消費電力 | 2.4W/灯 |
| 灯体色 | B: ブラック | 材質 | 本体: PC 接点: 銅 発光部: シリコン |
| | | 製品重量 | 本 体: 約28g/灯 |



01 ご使用前にお読みください

- ・本製品を安全にご利用いただくため、ご使用前に必ず本取扱説明書をお読みください。なお、本取扱説明書は必ず保存してください。
- ・出荷案内書の記載内容と商品の種類および数量が正しいことをご確認ください。
- ・出荷時には慎重に梱包しておりますが、開封した時に万一製品が破損していた場合はすぐにお知らせください。
- ・配線工事および器具の取り付けは、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および本取扱説明書に従ってください。(不備があると器具落下、感電、火災の原因となります。)
- ・異常 (煙や異臭等) を感じたら速やかに電源を切り、お買い上げの販売店にご相談ください (感電・火災の原因となります)。

- ・分解、改造は行わないでください。製品保証対象外となります。
- ・LED製品には、LED素子の性能向上や素子製造時のばらつきにより、個々のLEDで発光色や明るさが異なる場合があります。
- ・機器に高電圧がかかる絶縁測定器等は使用しないでください。故障の原因となります。
- ・照射距離が近い時や照射面の状態によっては光ムラが気になる場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品について汚れは、中性洗剤を軽く含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーなどは使用しないでください。

02 安全にご使用いただくために

本製品はDC24V専用器具です。AC100Vなど定格を超えた電圧がかかると、器具が破損します。発煙・発火の原因となります。配線には十分に注意してください。

本製品は一般屋内用器具です。下記のような使用環境、条件下では使用しないでください。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○周囲温度が0°C～40°Cの範囲を超える場所 ○周囲湿度が15～85%RHの範囲を超える、あるいは結露が生じる場所 ○粉塵が多い場所、振動が多い場所 | <ul style="list-style-type: none"> ○可燃性ガス、腐食性ガスなどの発生する場所 (シーリング材を密閉空間で使用した場合、ガスが発生する場合があります。) ○浴室など湿気が多い場所 |
|---|--|

※使用環境に適合するか否かの判断が困難な場合は、弊社までお問い合わせください。

03 灯具の取り付け

オービットには2種類の施工スタイルがあります。

スタンドの場合 ▶▶ 下部 **オービットスタンドの取り付け**

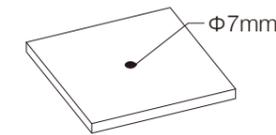
ガントリーの場合 ▶▶ PAGE 5 **オービットガントリーの取り付け**

をご参照ください。

オービットスタンドの取り付け

STEP 1

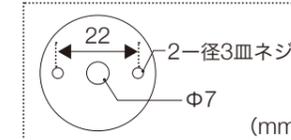
ドリルなどを利用し、Φ7mmのシャフト貫通穴を設けてください。取付部は、径3ネジが確実に固定できる板厚を確保してください。



- 注意**
- ① 穴は必ず垂直に開けてください。穴が傾いていると、シャフトが傾くことがあります。

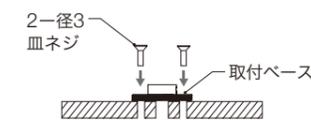
STEP 2

開口したら、取付ベースを2箇所固定します。「表側から固定」と、「裏側から固定」のどちらかを選択します。(STEP4仕上がりイメージ図参照)

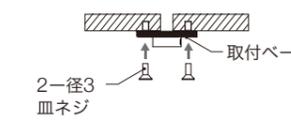


固定する際は、開口穴の芯と取付ベースの穴にズレが生じないように注意してください。

表側から固定



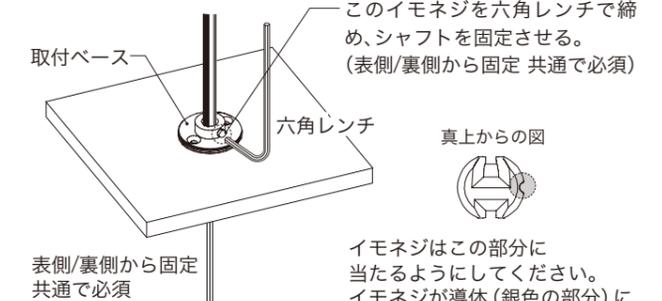
裏側から固定



- 裏側から固定の場合**
- ① 貫通穴小口に乱れがあると目立ちますのでご注意ください。
 - ① ネジが表側に貫通しないようにネジ長さにご注意ください。

STEP 3

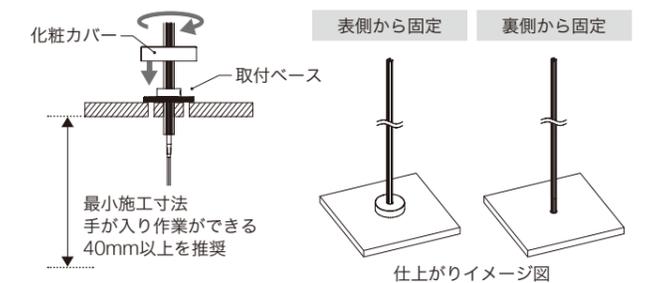
取付ベース固定後、シャフトを穴に通し、長さを調節したら六角レンチ (付属) を使用し、取付ベース側面のイモネジを締めてシャフトを固定します。



イモネジはこの部分に当たるようにしてください。イモネジが導体 (銀色の部分) に当たらないようご注意ください。

STEP 4

シャフトを固定後、「表側から固定」の施工をした場合、化粧カバーを上から被せ、回して取り付けます。「裏側から固定」の施工をした場合は、化粧カバーは必要ありません。

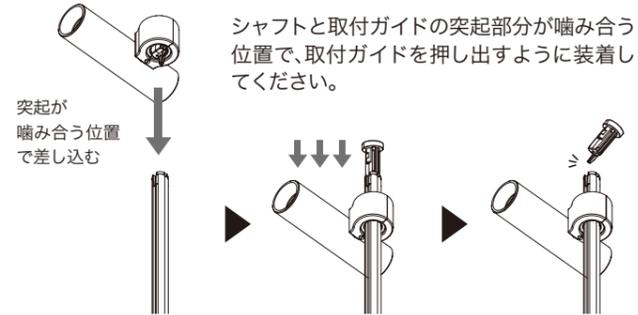


STEP 5

灯具装着：オービットスポットの場合

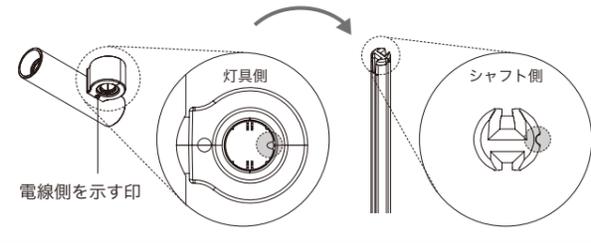
出荷状態の灯具を装着する場合

灯具には極性・嵌合があります。出荷時は、嵌合をわかりやすくするための取付ガイドが装着されています。



出荷状態ではない灯具を装着する場合

図を参考に、●部分の凹凸を合わせて装着してください。

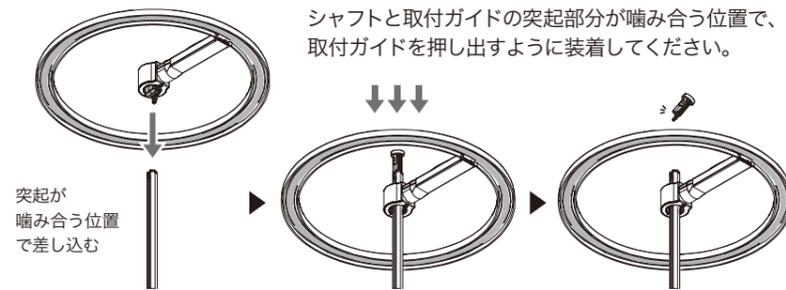


注意 シャフトに灯具を通す際は、灯具を強引にスライドさせたり、何度も上下に擦るようなことはしないでください。不点や器具の破損に繋がります。

灯具装着：オービットリングの場合

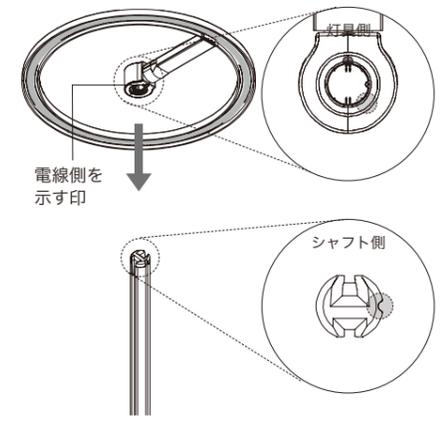
出荷状態の灯具を装着する場合

灯具には極性・嵌合があります。出荷時は、嵌合をわかりやすくするための取付ガイドが装着されています。



出荷状態ではない灯具を装着する場合

図を参考に、●部分の凹凸を合わせて装着してください。



注意 シャフトに灯具を通す際は、灯具を強引にスライドさせたり、何度も上下に擦るようなことはしないでください。不点や器具の破損に繋がります。

上向きに装着する場合

出荷時は下向きに照射する方向で梱包されていますが、上向きに照射したい場合は、予めシャフトを差し込む部分を180度回転させてから装着してください。



注意

- ・ガラスケースなど、狭いところに取り付ける場合は、通気に十分配慮し、周囲温度を40度以下に保ってください。
- ・発光部から被照射物までは100mm以上あけてください。被照射物の変色・変質を招くおそれがあります。
- ・施工の前に、必ず点灯検査を行ってください。

- ・取り付けの際、工具などで灯具を傷つけないでください。
- ・製品のとがった部分で手などを傷つけないようご注意ください。
- ・灯体のシャフト部分に強い力が加わらないようにしてください。灯体の折れや断線、脱落の原因となります。

オービットガントリーの取り付け

取付穴の開口・取付ベース固定

STEP 1

ドリルなどを利用し、Φ7mmのシャフト貫通穴を2箇所設けます。取付開口間隔寸法は、給電シャフト横の長さ-10mmです。取付部は、径3ネジが確実に固定できる板厚を確保してください。

注意 穴は必ず垂直に開けてください。穴が傾いていると、シャフトが傾くことがあります。

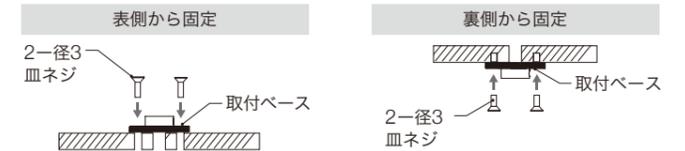
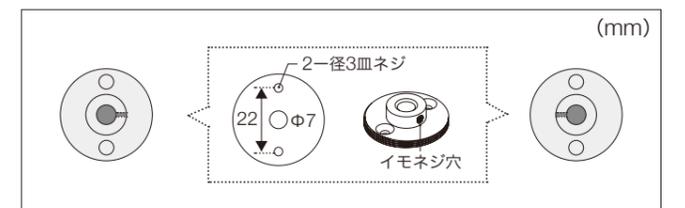


STEP 2

開口したら、取付ベースを2箇所固定します。「表側から固定」と、「裏側から固定」のどちらかを選択します。(PAGE7仕上がりイメージ図参照)。

固定する際は、開口穴の芯と取付ベースの穴にズレが生じないように注意してください。また、取り付けベースは、イモネジ穴が向かい合う向きに固定してください。

注意 裏側から固定の場合 貫通穴小口に乱れがあると目立ちますのでご注意ください。ネジが表側に貫通しないようにネジ長さにご確認ください。



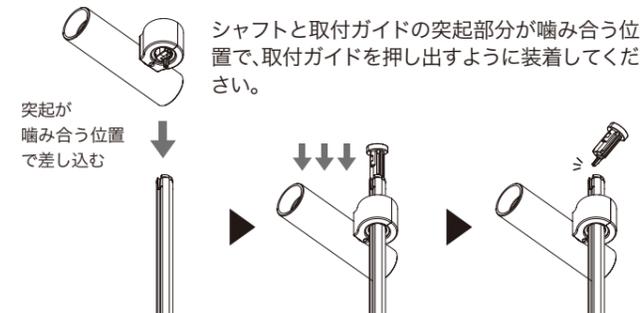
シャフトに灯具を装着

STEP 3

灯具装着：オービットスポットの場合

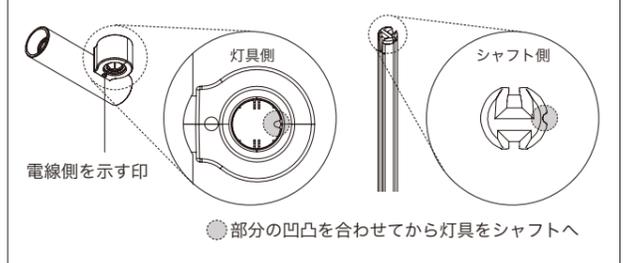
出荷状態の灯具を装着する場合

灯具には極性・嵌合があります。出荷時は、嵌合をわかりやすくするための取付ガイドが装着されています。



出荷状態ではない灯具を装着する場合

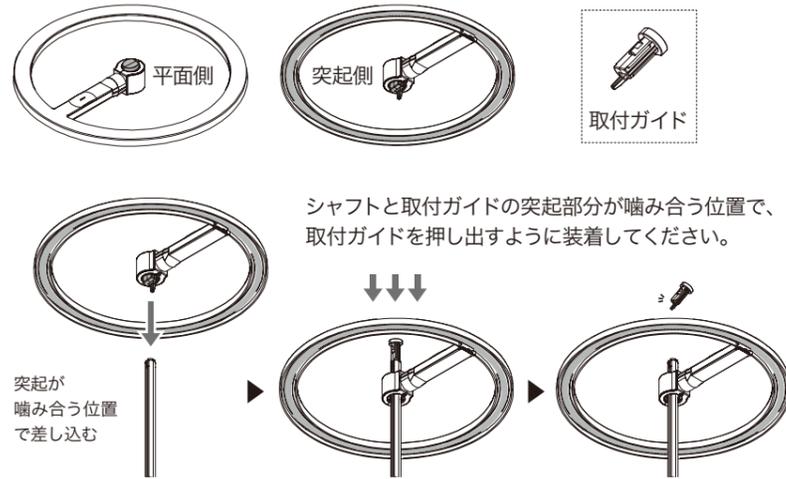
図を参考に、凹凸を合わせて装着してください。



注意 シャフトに灯具を通す際は、灯具を強引にスライドさせたり、何度も上下に擦るようなことはしないでください。不点や器具の破損に繋がります。

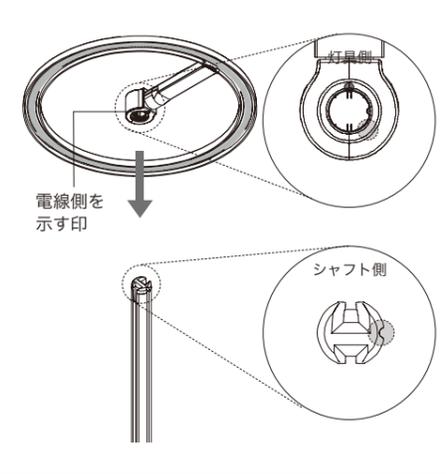
出荷状態の灯具を装着する場合

灯具には極性・嵌合があります。出荷時は、嵌合をわかりやすくするための取付ガイドが装着されています。



出荷状態ではない灯具を装着する場合

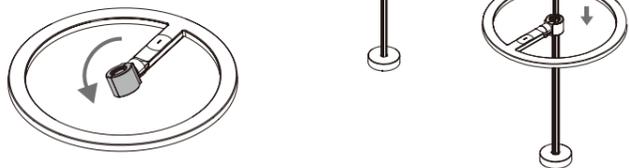
図を参考に、●部分の凹凸を合わせて装着してください。



注意 シャフトに灯具を通す際は、灯具を強引にスライドさせたり、何度も上下に擦るようなことはしないでください。不点や器具の破損に繋がります。

上向きに装着する場合

事前に照射する方向を確認してから装着してください。給電シャフト(横)の場合は左右の照射方向、給電シャフト(縦)の場合は上下の照射方向となります。

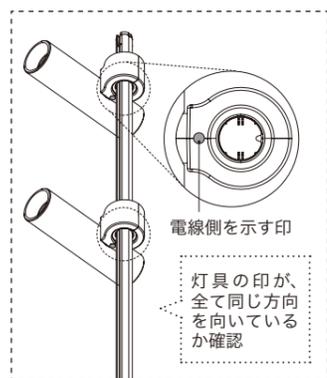


- ・ガラスケースなど、狭いところに取り付ける場合は、通気に十分配慮し、周囲温度を40度以下に保ってください。
- ・発光部から被照射物までは100mm以上あけてください。被照射物の変色・変質を招くおそれがあります。
- ・施工の前に、必ず点灯検査を行ってください。

- ・取り付けの際、工具などで灯具を傷つけないでください。
- ・製品のとがった部分で手などを傷つけないようご注意ください。
- ・灯体のシャフト部分に強い力が加わらないようにしてください。灯体の折れや断線、脱落の原因となります。

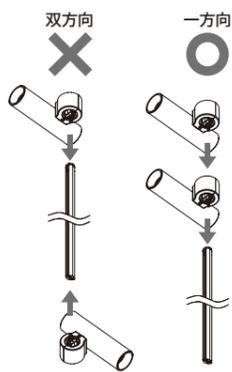
ガントリースタイルでの取り付けでは、スタンドスタイルとは異なり、灯具を取り付けてからシャフトを取り付けます。

そのため、灯具の取り付け向きが誤っていた場合、すぐに差し替えることが難しくなります。極性が合わず点灯しない灯具が出ないよう、よく確認してください。



複数灯装着時の注意点

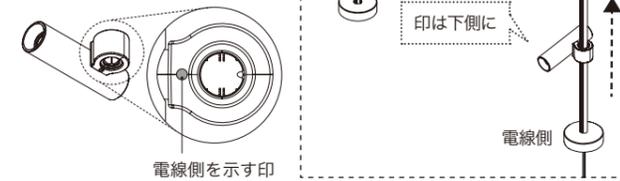
出荷状態の灯具を、1本のシャフトに複数灯差し込む場合は、全て同じ方向から装着することで極性を合わせることができます。双方向から差し込むと、極性が合わず点灯しない灯具が出てしまいます。お気をつけください。



注意

STEP 4

シャフトを取り付ける際、電流の向きに灯具の極性を合わせる必要があります。右図のように、シャフトに装着した灯具の印が、必ず電線側に向くように、シャフトを固定していきます。

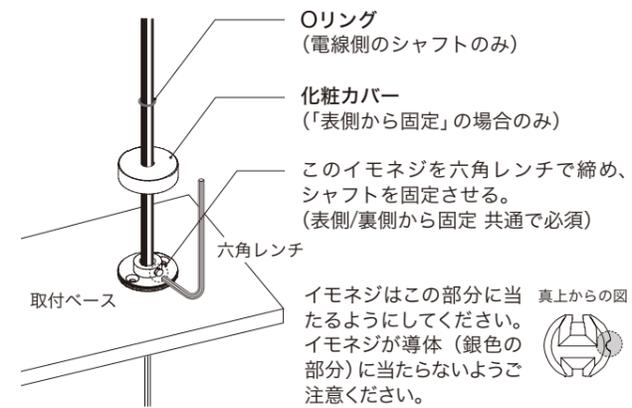


STEP 5

給電シャフト(縦) 2本を、向きに気をつけながら穴に通します。(STEP4参照) 長さを調節したら六角レンチ(付属)を使用し、取付ベース側面のイモネジを締めて2本のシャフトの高さが水平になるよう固定します。

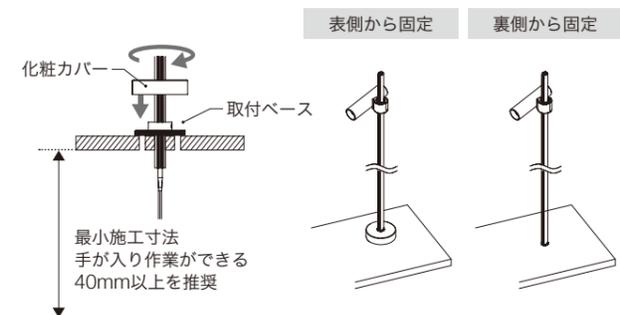
この時、電線側のシャフトには、目印となるOリングをシャフトと一緒に通してください。

また、「表側から固定」の施工を行う場合は、化粧カバーもシャフトと一緒に通してください。「裏側から固定」の施工を行う場合は、化粧カバーは必要ありません。



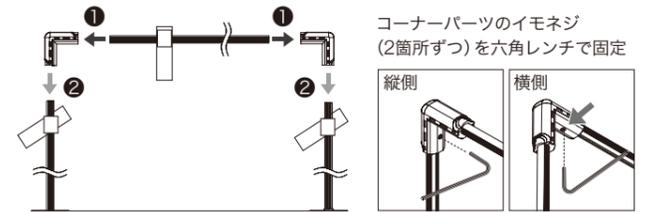
STEP 6

シャフトを固定後、「表側から固定」の施工をした場合、化粧カバーを回して取り付けます。



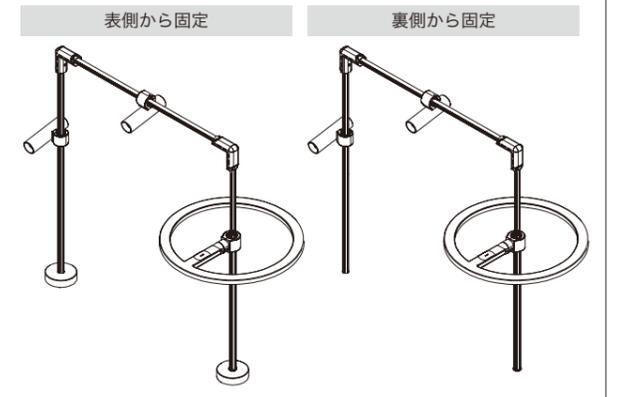
STEP 7

最後に、給電シャフト(横)を給電シャフト(縦)に取り付けます。電線側を示すOリングを参考に、灯具の印が、必ず電線側に向くようにシャフトの向きを確認してください。(STEP4参照) 図のように、① 給電シャフト(横)の両端にコーナーパーツを装着し、その後に② 給電シャフト(縦)の上から差し込んでください。



コーナーパーツのイモネジ(2箇所ずつ)を六角レンチで締め、シャフトを固定すると完成です。灯具が点灯しない場合は、灯具の印が電線側に向いているかどうか、向きをご確認ください。

仕上がりイメージ図

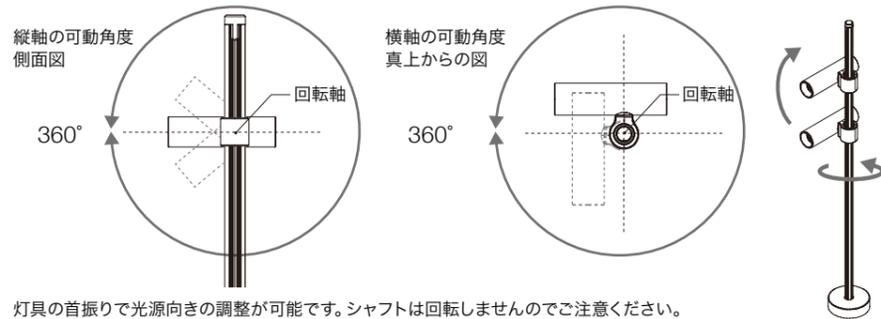


注意

- ・ガラスケースなど、狭いところに取り付ける場合は、通気に十分配慮し、周囲温度を40度以下に保ってください。
- ・発光部から被照射物までは100mm以上あけてください。被照射物の変色・変質を招くおそれがあります。
- ・施工の前に、必ず点灯検査を行ってください。
- ・取り付けの際、工具などで灯具を傷つけないでください。
- ・製品のとがった部分で手などを傷つけないようご注意ください。
- ・灯体のシャフト部分に強い力が加わらないようにしてください。灯体の折れや断線、脱落の原因となります。

04 可動角度について

可動角度：オービットスポットの場合



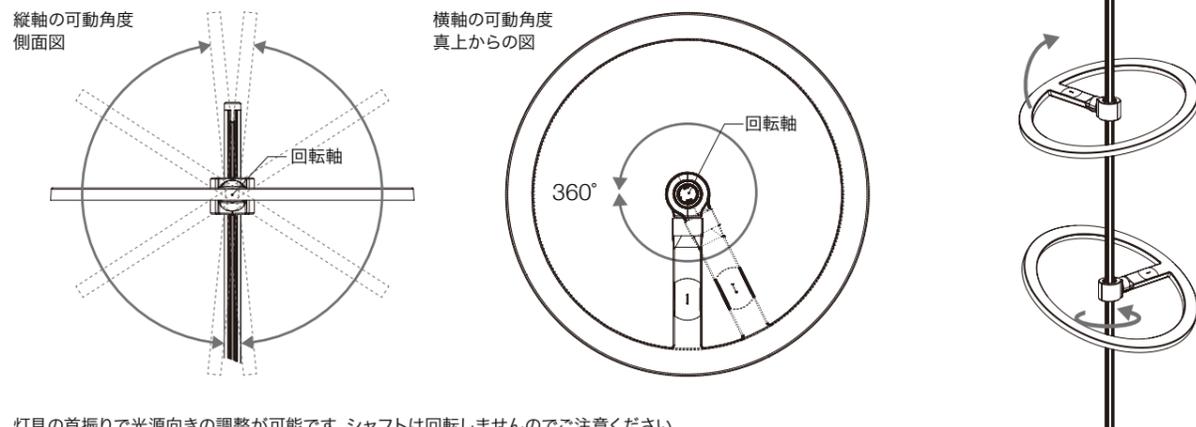
灯具の首振りで光源向きの調整が可能です。シャフトは回転しませんのでご注意ください。角度を変える際は、シャフトを支えながら、灯具を縦軸/横軸方向に静かに首振りを行ってください。

灯体の交換について
オービットは光源色や配光の異なる別灯体への交換や、場に応じて灯具数を変更することができます。



・無理な力を加えて、シャフトを曲げたり回転させたりしないでください。共に断線や故障の原因となります。

可動角度：オービットリングの場合

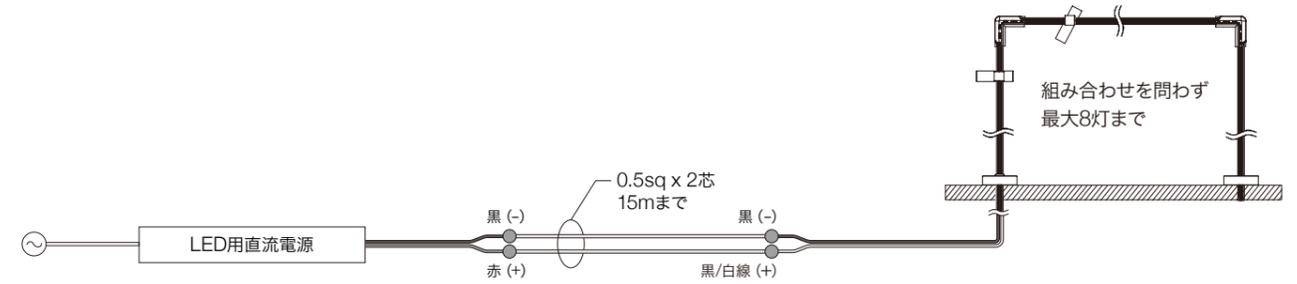


灯具の首振りで光源向きの調整が可能です。シャフトは回転しませんのでご注意ください。角度を変える際は、シャフトを支えながら、灯具を縦軸方向に静かに首振りを行ってください。



・無理な力を加えて、シャフトを曲げたり回転させたりしないでください。共に断線や故障の原因となります。

05 電源と配線



※電源/調光ユニット1台に複数のスタンド/シャフトを接続してご使用いただけます。その場合も、電源/調光ユニット1台で点灯できる灯数は組み合わせを問わず最大8灯までです。



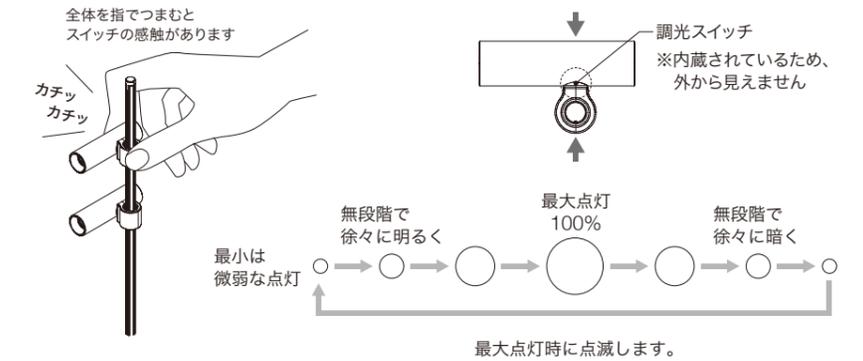
・電源の接続灯数を越えた数量の灯具を取り付けしないでください。

・点灯中の器具は熱くなっておりますのでご注意ください。本体が温まっている際に調光する場合は低温やけどを防止するため手袋を装着してください。

個別ON/OFF・個別調光について

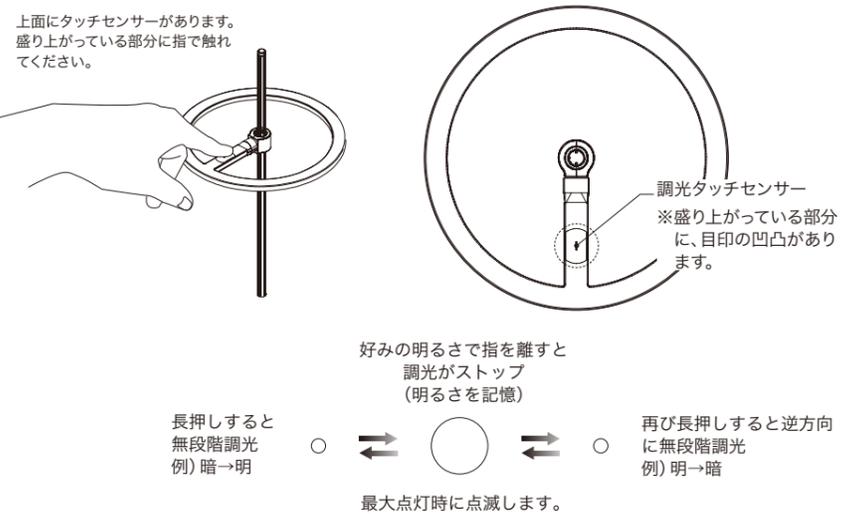
オービットスポットの場合

- ・オービット スポットは1灯ずつ調光が可能です。図で示した調光スイッチを押すことで、無段階で明るさの調節ができます。好みの明るさになってからスイッチを離すと、その時の明るさが保たれます。
- ・調光後に電源をOFFにし、再びONにした際は、前回設定した明るさでの点灯となります。(ラストメモリー機能)



オービットリングの場合

- ・オービット リングは1灯ずつ個別にON/OFF、調光が可能です。図で示した部分のタッチセンサーに指で触れることで、ON/OFFが操作できます。触れ続けている間、無段階で明るさの調節ができます。好みの明るさになってからタッチセンサーを離すと、その時の明るさが保たれます。
- ・調光後に電源をOFFにし、再びONにした際は、前回設定した明るさでの点灯となります。(ラストメモリー機能)



好みの明るさで指を離すと調光がストップ (明るさを記憶)
長押しすると無段階調光 (例) 暗→明
再び長押しすると逆方向に無段階調光 (例) 明→暗